

鳥取市の新指定文化財の概要

- 1) 指定名称：津和野藩主亀井家墓所附亀井茲矩墓
【つわのはんしゅかめいけぼしよつけたりかめいこれのりのはか】
- 2) 所在地：島根県鹿足郡津和野町後田イ 396 番 1 外
鳥取市気高町山宮字武蔵山 650 番外
- 3) 指定面積：津和野町 (110,299.73 m²) 鳥取市 (7,185.00 m²)
- 4) 規模：墓碑 (全高 308cm×正面 67cm×側面 59cm)
台座 1 (正面 104cm×側面 90cm×高さ 30cm)
台座 2 (正面 368cm×側面 370cm×高さ 42cm)
台座 3 (正面 640cm×側面 650cm×高さ 150cm)
基壇 1 (正面 810cm×側面 820cm×高さ 24cm)
基壇 2 (正面 960cm×側面 878cm×高さ 24cm)
- 5) 時代：江戸時代
- 6) 概要

江戸時代、石見国津和野藩初代藩主となった政矩以下、幕末に至る歴代藩主を葬った乙雄山墓所及び菩提寺である永明寺（島根県津和野町）と、政矩の父で因幡国鹿野藩主であった亀井家初代茲矩墓（鳥取県鳥取市）から成る近世大名家墓所である。茲矩は、弘治3年（1557）戦国大名尼子氏の家臣の家に生まれ、主家再興のため毛利氏と戦い、後に羽柴秀吉のもとで功績を挙げて鹿野城主となり、慶長17年（1612）鹿野に没した。跡を継いだ政矩は、元和3年（1617）津和野に転封となり、以後亀井家は津和野藩主として明治維新に至った。津和野城下町の北東に位置する乙雄山中腹には、歴代藩主と一族の墓が一体的に営まれ、茨楨方柱型、唐破風屋根付方柱型、そして他の大名家に見られない独特な位牌型の墓標が採用され注目される。乙雄山南西に位置する永明寺には江戸期の本堂等が残り菩提寺としての雰囲気良く残す。境内に残る藩主一族・家臣墓の墓標形態は、藩主墓を最上位の規範とした序列に基づく。亀井茲矩墓は、鹿野城跡北西約3kmの武蔵山頂部に造営され、亀井家の津和野移封後も維持された。その尖頂方柱型の墓標は成立期の大名墓の形態をよく示す。近世大名の葬制や祖先祭祀の在り方、藩主を頂点とする身分序列を示すものとして貴重である。

7) 指定申請に至る経緯

亀井茲矩公墓所は平成8年2月22日に気高町指定史跡に指定され、平成16年11月の市町村合併とともに、鳥取市指定史跡として継承され、保護されてきた。平成28年度に島根県津和野町が津和野藩主亀井家墓所及び菩提寺である永明寺の国史跡指定を目指した取り組みを進める中で、鳥取市に所在する亀井家初代当主の亀井茲矩公墓所も津和野藩主と繋がりが深いことから共同で国史跡指定を目指すことになった。

8) これまでの調査の概要

○平成28年度 業者に測量を委託し、事業を実施

調査期間：平成28年10月～12月

(1) 墓所周辺の地形測量

墓所周辺の地形測量図の作成

(2) 廟所の3次元計測

廟所の平面図や立面図を作成

○平成29年度 試掘調査を実施し、報告書刊行

調査期間：平成29年4月18日～19日

調査面積：5.3㎡

(1) 廟所に2箇所調査区を設定し、造成面の確認調査を実施

9) その他

○現在鳥取市内の国史跡は8件（一覧のとおり）あり、今回で9件目である。

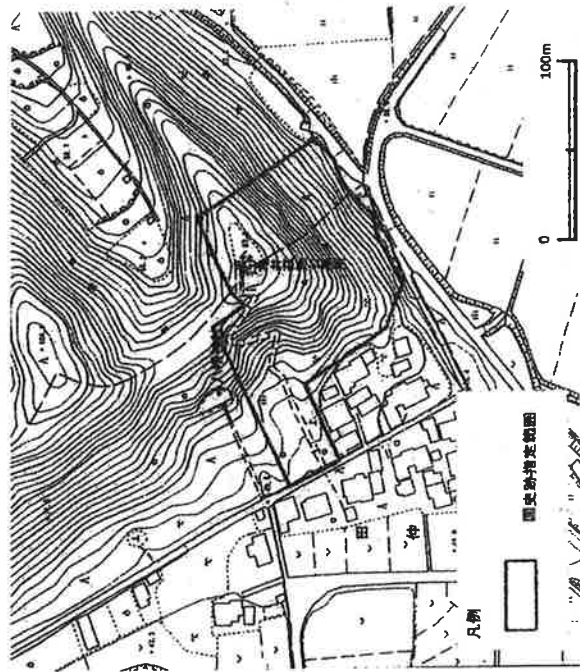
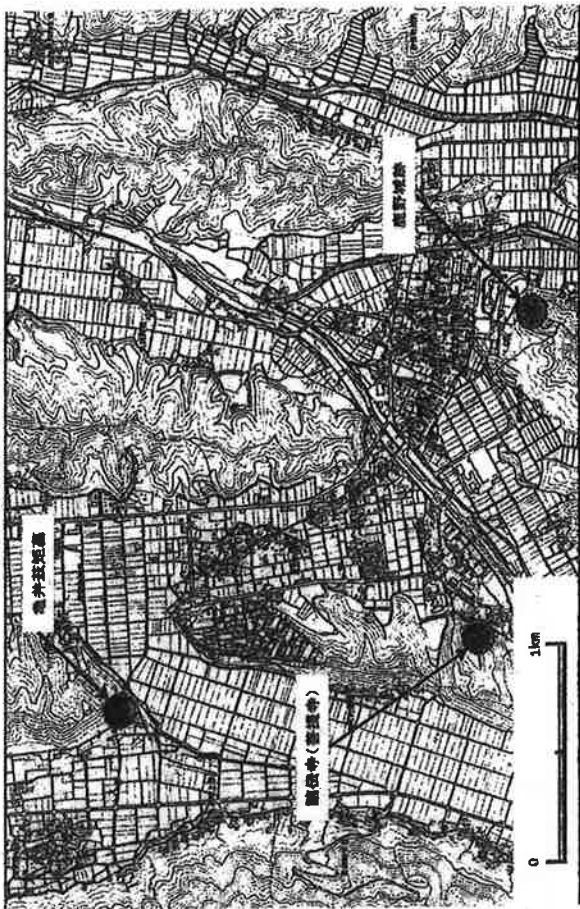
○国史跡となっている近世大名家墓所は21件あり、そのうち2県にまたがるものは2件（彦根藩主井伊家墓所及び加賀藩主前田家墓所）である。今回で3件目である。

※なお2県にまたがっている墓所は上記2件のほか、近松門左衛門墓があるので墓所としては4件目となる。

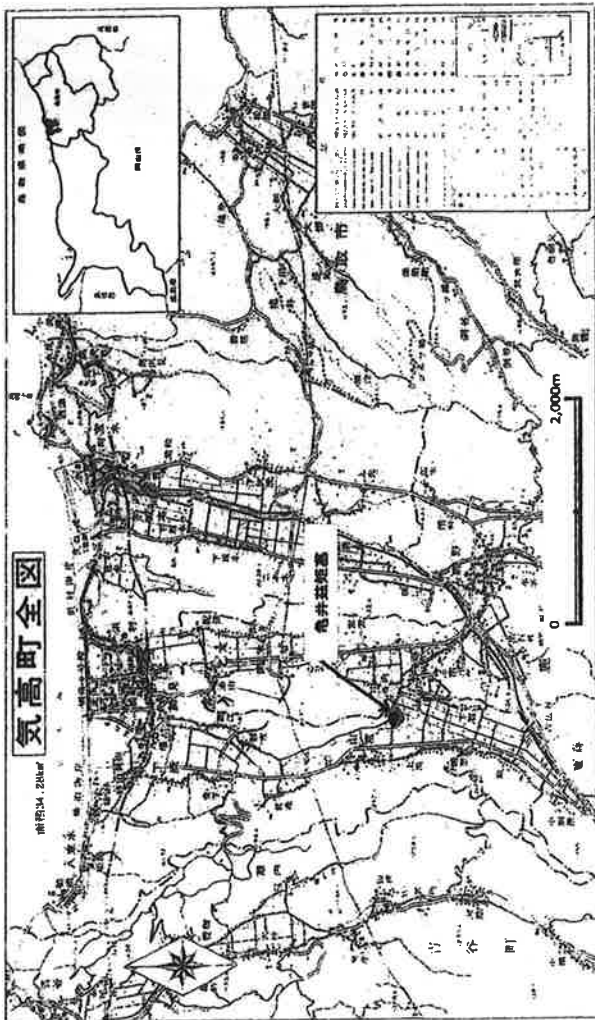
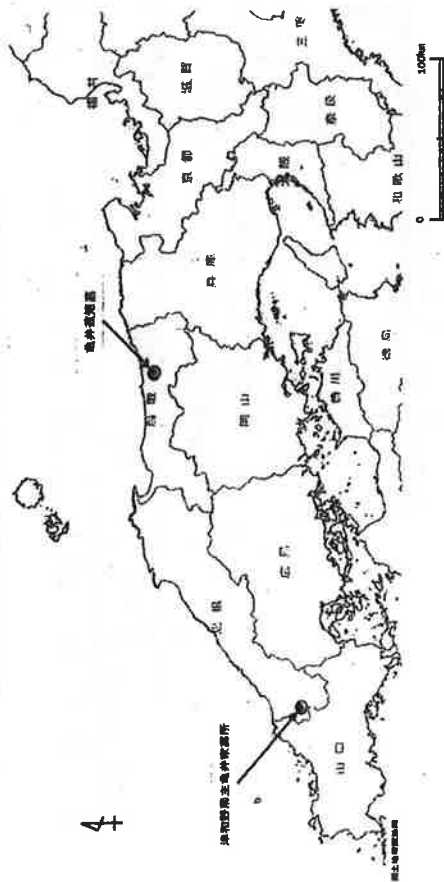
鳥取市内の国史跡一覧

| 番号 | 指定名称 | 所在地 | 指定年月日 |
|----|------------|---------------|-------------|
| 1 | 鳥取城跡附太閤ヶ平 | 東町、栗谷町、百谷、円護寺 | 昭和32年12月18日 |
| 2 | 布勢古墳 | 布勢 | 昭和49年12月23日 |
| 3 | 梶山古墳 | 国府町岡益 | 昭和54年4月21日 |
| 4 | 鳥取藩主池田家墓所 | 国府町奥谷、宮下 | 昭和56年10月13日 |
| 5 | 伊福吉部徳足比売墓跡 | 国府町宮下 | 大正13年12月9日 |
| 6 | 因幡国庁跡 | 国府町中郷 | 昭和53年7月21日 |
| 7 | 栃本廃寺跡 | 国府町栃本 | 昭和10年12月24日 |
| 8 | 青谷上寺地遺跡 | 青谷町青谷、吉川 | 平成20年3月28日 |

龜井茲矩墓位置圖



津和野藩主龜井家墓所附龜井茲矩墓位置圖



4